

2009
6月号

第94号

次回発行は
6月25日

いきいき生活提案情報紙!!

Well

らくうえる。

TEL.072-931-1015/FAX.072-931-1013

毎月1回25日発行/創刊:2001年9月1日

配布地区・方法 藤井寺市・羽曳野市・富田林市(読売新聞・朝日新聞折込)・
(一部)南河内郡・大阪狭山市・河内長野市・柏原市・八尾市(読売新聞折込)・協力機関・店舗設置
発行部数 85,000部
発行所 有限会社 ステラ 〒583-0011 大阪府藤井寺市沢田1丁目31-3

ようこそ富田林市商業連合会へ

www.tontan.jp

富田林お役立ちガイド“Tontan”

■「らくうえる。」の主な設置場所

くまざき歯科・LICはびきの・すばるホール・はびきのコロセ
アム・ラプリーホール・富田林市観光協会・SAYAKAホール・
プリズムホール・リビエールホール・FMちゃお・キックス・クリ
ンピア21・ばいせん工房珈琲倶楽部・はびきのスミミング
スクール・根っこや・花旬彩・さかもと藤井寺店・さかもと富
田林店・一心太助・八尾柏原ドライビングスクール他協賛
店舗

生き甲斐をもち輝き続ける素敵なお母さん No.94



■自分の時間を少し持つだけで
子どもにさらに優しい顔になれる

玄関を開けると中から子どもたちの元気な声が聞こえてきた。おもちゃを持ってニコニコしているヨチヨチ歩きの子、ピアノの鍵盤を興味深そうに触っている男の子…。スタッフに見守られながら、どの子も思い思いに遊んでいる。そんな子どもたちの隣で、テーブルに座ってお茶を飲みながら楽しそうにおしゃべりをしている女性たち。ここは、子育て中の人が集う「ほっとひろば」保育のための「きつずルーム」などを運営している子育て支援ひろば「ふらっとスペース金剛」。その代表理事を務めるのが岡本聡子さんだ。

「私には中学3年と小学5年の娘がいるのですが、育児真っ最中の頃は「なんで私ばかりこんなにしんどいの」と涙の出る日がたくさんありました。せめて、「一杯のお茶をゆつくり飲む時間があれば…」と何度思ったか分かりません。今、核家族化が進み、子育てに追われているお母さんはいっぱいいます。そんな方が一杯のお茶をゆつくりと飲みに来られる場所をつくりたかったです」

ここは育児のノウハウを教える場所ではなく、ひと息ついてもらう場所。決して「育児、頑張りや」とは言わず、「頑張ってるね。たまにはちょっと休憩したら？」と声をかける。そんな「ほっとひろば」に、同じ子育て中の友達が欲しい人や、育児の悩みを相談したい人などが、お茶を飲みに来てくる。利用するのに予約は不要。「ふらっと」来てもらえ

今月の人 岡本聡子さん

育児に一生懸命なお母さん、一杯のお茶をゆつくり飲みに来ませんか？

ばい、法人名にはそんな思いが込められている。

「育児は、とくに女性に重くのしかかっています。もちろん子どもは可愛い存在。だからこそ、ときには自分の時間を持つてリフレッシュすることも必要です。心に余裕があれば、より優しい顔で子どもに向き合えるでしょう？だから、気軽にここに来て、愚痴をこぼしたり悩みを話したりしてほしい。保育の利用時でも理由は不問です。パパとのデートでも習い事でもなんでもいい。ママだからって、自分の時間を持つてくことを我慢しないでいいんですよ」

岡本さんをはじめ、ここで働くスタッフ全員が共有しているのが、「I AM OK YOU ARE OK」ありのままの私でいい。ありのままの子でいい」という思い。こうしないとイケない、あしんどい、いけないと考えるのではなく、100人いれば100通りの子育ての形があり、大切なのは「その人らしさ」。それを見守り、応援していきたいと岡本さんは言う。

「お母さんにとって欲しいのは指導ではなく支援。しんどい時に「しんどい」と言え、そう言われたら「私にできることあるよ」と言っただけでいい関係性を築ける場でありたいですね」

■私がお婆さんになったとき、
ここにきてくるときの夢

岡本さんが「ふらっとスペース金剛」を立ち上げたのは03年。今ほど行政が育児支援に

PROFILE

NPO法人 ふらっとスペース金剛
代表理事
社会福祉士・心理相談員・保育士
富田林市在住
岡本聡子さん(昭和47年生まれ)
結婚後、2女の育児をしながら障がい者施設のボランティアを続け、社会福祉士の資格を取る。自身の育児体験から、育児中の女性がひと息ついている場所をつくりたいと03年に「ふらっとスペース金剛」を創設。04年にNPO法人化し、その活動が富田林市つどいの広場事業として委託される。「ふらっとひろば」ほか多彩な活動を企画・運営しながら、保育士免許も取得。趣味は温泉めぐり。

聞き手 松岡理絵

力を入れていなかったときだったという。

「こんな場が必要だと思っただけ、最初は大変なことだらけ。特に資金面はあってもなく、活動拠点の家賃などで当初2年半は持ち出しの状態でした。スタッフの確保も簡単ではありませんでした」

経営や危機管理の勉強も重ね、少しずつ利用者も増え、活動を始めて翌年にはNPO法人化。「ほっとひろば」は富田林市市民会館インポートホール内、「かがりの郷」内でも展開している。また、岡本さんはスタッフから「さらに忙しくなるから、これ以上アイデアを出さないで」と冗談交じりに言われるほどのアイデアマン。派遣託児、子育てヘルパーの派遣のほか、社会との断絶を感じがちなお母さんたちに「できること・得意なこと」を登録してもらい、それを生かせる場づくりをスタッフと考えて応援する「できること登録」施設内で手作りの作品を展示販売する「ふらっとギャラリー」、小学生が大学生のリーダーたちと一緒にキャンプや登山などを体験する「子どもわくわく体験隊」など、活動はどんどん多彩に。5月からは、小学生が自分のペースで勉強ができる「ふらっと寺子屋」も始まった。活動当初、ボランティアの学生は岡本さんが地元大学の大学に出向き、直接学生に声をかけて集めてきたのだとか。

「すべて、自らの体験の中で必要だと感じたから始めたものばかり。これからもそんな目線と当事者性を大事にしていきたい。それが私たちにらしい活動だと思っただけです」

じつは、「ふらっと」に込められた思いがもう一つある。それは、「フラット」お互い様「な人間関係」。

「高齢者やお父さんなど関わる人がもっと多様になり、みんなで支え合える場にしていきたい。いつか私がおばあちゃんになって、ここにお茶を飲みに来たら、きつずルームで遊んでいた子が大きくなってスタッフになっている。そんな人の循環を地域の中でつくり出せたらいいなと思っっています」

数年前に「ほっとひろば」に参加していた女性の一人が今はスタッフとして働いている。すでに始まっている支え合いの循環が、「誰もが支えられる側であり、支える側でもある」ということを改めて教えてくれた気がした。